

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

第18回 わらび健康まつり開催される

10月21日(日)に第18回わらび健康まつりが開催されました。今回、埼玉県臨床検査技師会は骨密度検査を担当し、まつり運営に協力しました。当日は天候にも恵まれ、多くの来場者で賑わいました。



以下にイベントスタッフとして参加された会員の方の感想を掲載します。



東武医学技術専門学校 田村 誌緒里

今回、わらび健康まつりに参加させていただき、骨密度測定を担当しました。老若男女問わず大勢の方が来てくださり、温かな雰囲気の中、新鮮な気持ちで技師会活動をさせていただきました。また、検査結果を説明する際には、市民の方々と様々なお話ができ、身近な存在に感じることでできる貴重な時間となりました。今回の活動を通して、市民の方々が少しでも検査に興味を持ってくださり、自分自身の健康状態の把握に繋がっていただけたら嬉しいです。

短い時間ではありましたが、他病院の方々との交流も貴重な経験となりました。そして、様々な意見交換ができましたことも大変嬉しく思っております。この経験を大切に、これからも積極的に技師会活動に参加させていただけたらと思います。

ありがとうございました。



川口市立医療センター 阿部 秀俊

わらび健康まつりに参加して、市民の皆様の健康への関心度合いが高いことを改めて感じました。毎年欠かさず参加して下さる方、健康に不安を感じている方等多くの方が足を止め参加されていました。このような機会を通して、多くの皆様に自らの健康について見つめ直していただく時間を提供できたことを嬉しく思います。私自身、測定結果を分かりやすく説明するだけでなく、その結果を基にどう実生活に活かしていただけるかを心がけて説明致しました。

各研究班の研修会報告を致します。

テーマ 臨床に必要な凝固系の知識とFFP輸血

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成30年9月20日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 603号室 点数：専門教科－20点

講師：山本 晃士（埼玉医科大学総合医療センター 輸血細胞医療部）

参加人数：会員95名 賛助会員1名 学生2名

出席した研究班班員：山田攻 渡邊一儀 長谷川卓也 久保居由紀子 宮澤翔子 小林真弓
小原佑太 野呂光恵

研修内容・感想など

今回の研修会は、山本医師をお招きして、新鮮凍結血漿（FFP）と大量出血症例に対する輸血療法についてご講演いただいた。

PTやAPTTの延長の程度は、出血のしやすさとは比例しないため、総凝固能の指標としては不適切であり、FFP輸血によりPTやAPTTを改善すれば止血凝固能があがるというのは誤解である。FFP輸血により止血可能域を下回っている凝固因子濃度を止血可能域まで上げることができれば止血が可能となるが、FFP輸血による凝固因子の補充では、容量も増えるため凝固因子濃度は上がらない。凝固因子を濃縮した分画製剤が存在するのであれば、そのほうが適しており、止血目的でのFFPの投与意義は、主にフィブリノゲンの補充にあるとの事であった。この他にも、止血に必要なFFPの投与量や大量投与による弊害、融解後の使用期限が延長（日赤の添付文書では融解後24時間以内に使用）された事などについて詳しく説明していただいた。

大量出血は血管や臓器が傷つくことによる出血と凝固因子（特にフィブリノゲン）を失う事による出血が原因となり、凝固障害による出血は外科的な止血処置を極めて困難にする。大量出血をきたす症例が多い心臓血管外科、産科、外傷（救命救急科）領域について、高度な凝固障害（低フィブリノゲン血症）が起きる機序や濃縮フィブリノゲンを投与した大量出血症例の輸血治療などを解説していただいた。

大量出血・輸血症例では、ヘモグロビン値や血小板数の把握だけでなく、血中フィブリノゲン濃度が重要であり、適切なタイミングで補充をしなければならない。しかし、FFPだけではフィブリノゲン含有量が少ないため、高度な低フィブリノゲン血症（Fib値<150mg/dL）からの早期離脱は難しく、FFPと併用して濃縮フィブリノゲンの投与が必須となる。現在、日本で使用できる濃縮フィブリノゲンはクリオプレシピテートとフィブリノゲン製剤であるが、クリオプレシピテートは自施設での調整が必要であり、大量出血におけるフィブリノゲン製剤の使用は保険適用外となる。そのため、県内でも濃縮フィブリノゲンを使用している施設はごく一部であり、多くの施設がFFPだけで対応している。数年後には産科領域でフィブリノゲン製剤の保険適用が認められるとの事であり、今後、大量出血症例に対する輸血治療が変わる可能性がある。先駆けて濃縮フィブリノゲンを用いて治療を行っている施設での輸血療法は、大変参考になり、参加者にとって有意義な研修会であったと思われる。

(文責：野呂光恵)

テーマ 論文の書き方 ～書き方のポイント・注意点～

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：平成30年9月21日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 602号室 点数：基礎教科－20点

講師：奥住 捷子（上尾中央医科グループ 上尾中央総合病院）

参加人数：会員39名

出席した研究班班員：穴原賢治 菊地孝司 立塚梓 石井孟 鈴木智子 吉田翔平 鈴木勤

研修内容・感想など

今回論文の書き方と題して、奥住氏にご講演していただいた。講演者の経験談に加え、ユーモアを交えた、参加者の興味を引く講演内容であった。講演内容はまず投稿から査読にいたる流れを詳細に説明され、投稿規定の理解の仕方から終わりとなる引用文献の書き方にいたった。幅広い内容について実例を交え丁寧に説明していただき理解も深まった。また初学者が論文作成の際に頭を悩ましがちな論文作成時の約束ごとを自施設の侵襲性肺炎球菌感染症（IPD）の出

展例を基に丁寧に説明していただいた。加えて講演最後には、参加者が査読委員の立場にたち実際に査読を行い、査読者の対場から一つの論文を皆で考えてみるといったような、ものの見方の逆転思考には感銘と驚きを覚えた。今回奥住氏のご厚意により、素晴らしい資料を提供していただき感謝したい。終わりに今回の内容は、はじめて論文作成に挑み、作成に悩んでいる検査技師の一助となり得た講演であった。(文責：鈴木 勤)

テーマ CMLの検査から最新の治療戦略 ～ 慢性骨髄性白血病をアップデートしましょう ～

主催 血液検査研究班

実施日時：平成30年9月27日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：専門教科ー20点

講 師 1：常名 政弘（東京大学医学部附属病院 検査部副検査技師長）

講 師 2：石川 真穂（埼玉医科大学国際医療センター 造血腫瘍科助教）

参加人数：会員55名 学生2名

出席した研究班班員：原誠則 星孝夫 網野育雄 圓田和人 軍司雅代 蔵光寛行 渋川絵美
中山智史 石井千晴

研修内容・感想など

慢性骨髄性白血病（CML）は、一日1回の飲み薬で急性転化を起こさずに一生を過ごせる病気であり、移行期からは治療抵抗性にもなりやすく、急性期になれば治療は困難を極めるため、慢性期の段階で治療を開始し急性転化させないことが最も重要である。自覚症状が無く、健康診断などで偶然発見されることが多く、血液自動分析装置で白血球の数値を見る検査技師が第一発見者となる。

まず、検査技師である常名氏から、CML鑑別のポイントとして血算データと自動分析装置のスキュッタの見方、生化学項目（特にLDH・間接Bil）のデータ確認する意義を他の疾患ともデータを比べながら、お話いただいた。CML早期発見の試みとして、白血球の増加・血小板の減少・左方移動を伴う好塩基球の3～5%の増加がみられた場合にCML疑いとして臨床に連絡をする取り組みを行い、年間に数例新規のCMLを発見できているので、芽球が見つからない段階での発見になり、非常に有益な試みであると感じた。

次に、石川氏からはCMLの病状、今までの治療を実際の写真を踏まえながら現場の様子や、治療の副作用や合併症の話、治療が順調に進むように患者さんに寄り添いCML以外の病気やライフスタイルまで考慮して診療にあたっていると伺った。今後のCML治療については、病状によっては休薬や投薬中断できる可能性を検討する潮流があることも教えていただき、変化していく治療についてアップグレードし続けていかなくてはならないと感じた。

(文責：石井千晴)

求人案内

○医療法人 道心会 埼玉東部循環器病院付属 越谷循環器クリニック

採用条件：正職員

連絡先：048-971-7830 事務長 鈴木

○社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス 東埼玉総合病院

採用条件：正職員

連絡先：0480-40-1311 総務課 採用担当

○医療法人社団 和風会 所沢中央病院健診クリニック

採用条件：正職員、臨時職員（パート）

連絡先：04-2997-5500 事務課長 富永浩一

○医療法人 大宮シティクリニック

採用条件：正職員、臨時職員（パート）

連絡先：048-645-1256 本部長 星野

○医療法人 早仁会 久喜メディカルクリニック

採用条件：正職員、臨時職員（パート）

連絡先：0480-25-6555 担当 村上

○医療法人 社団俊睿会 南埼玉病院

採用条件：臨時職員（パート）

連絡先：048-965-1151 事務長 宮田久美子

○株式会社ピーシーエルジャパン 病理・細胞診センター

採用条件：正職員、臨時職員（パート）

連絡先：049-234-7310 人事課 古田島

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

平成30年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第8回 理事会議事録

日 時：平成30年10月18日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所
さいたま市浦和区領家 7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事) 神山 矢作 岡田 松岡 小山
濱本 奈良 長岡 小島 伊藤
菊池 長澤 神嶋 濱田 笹野
神戸 山口 猪浦 阿部
(監事) 細谷 遠藤

欠 席：(理事) 鳥山 石井

本日の理事会の出席者は21名であった。理事の出席者は19名で、現在数21名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告 (平成30年9月13日～平成30年10月17日)

9月13日(木)平成30年度第7回理事会：

神山、岡田、矢作、松岡、小山、
濱本、鳥山、猪浦、阿部、奈良、
小島、神嶋、長澤、伊藤、濱田、
笹野、石井、神戸、遠藤、細谷

9月13日(木)会計ソフト入力：

石井、神戸、阿部

9月21日(金)日臨技政策推進委員会：神山

9月21日(金)日臨技支部長会議：神山

9月21日(金)日臨技表彰規定委員会：神山

9月21日(金)会計ソフト入力作業：石井、阿部

9月21日(金)第46回埼玉県医学検査学会

第11回実行委員会：長岡

9月22日(土)日臨技理事会：神山

9月22日(土)日臨技認定センターWG会議：

神山

9月22日(土)日臨技人事委員会：神山

9月25日(火)赤石清美氏 叙勲祝賀会：神山

9月26日(水)全国検査と健康展 埼玉会場 コル

ソ打合せ：神山、長澤、濱田

9月27日(木)第18回わらび健康まつり

第3回実行委員会：長澤

9月28日(金)第13回深谷市福祉健康まつり

第2回実行委員会：笹野

10月3日(水)日臨技国際協力事業カンボジア派遣技術者会議：神山

10月3日(水)第1回臨床検査技師養成校連絡協議会 事前準備：伊藤

10月6日(土)第1回臨床検査技師養成校連絡協議会：神山、矢作、伊藤、長澤、神嶋

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 埼玉県より「運営組織及び事業活動の状況に関する立入検査の実施について」通知があった。

日時：平成30年11月1日(木)

13:30～17:00

場所：埼臨技事務所

2) 平成30年度災害派遣技師研修会に小山常務理事を推薦することとした。

日時：平成30年12月14日(金)・

15日(土)

場所：日臨技会館

3) 慶弔規定に則り、会員のご遺族へ弔慰金を供した。

2 総務部

1) 「埼臨技だより」第473号、10月15日発行予定

3 事業部

1) 9月26日、全国検査と健康展 埼玉会場 コルソ打合せを行った。

2) 9月27日、第18回わらび健康まつり第3回実行委員会を行った。

3) 9月28日、第13回深谷市福祉健康まつり第3回実行委員会を行った。

4) 10月6日、第1回臨床検査技師養成校連絡協議会を開催した。

4 学術部

1) 10月15日、平成30年12月・平成31年1月生涯教育研修プログラム発行予定

2) 日臨技推進事業生涯教育助成金について中間報告があった。

5 精度保証部

1) 日本臨床衛生検査技師会、日本臨床検査標準協議会が認証する、精度保証施設認証制度に関する記事を埼臨技だより10月号に掲載予定。

6 会計部

1) 日臨技より平成30年度正会員費11名55,000円、入会金11名分11,000円、合計66,000円の入金があった。

2) 日臨技より生涯教育推進研修会助成金48,500円×1研修会、50,000円×2研修会、合計148,500円の入金があった。

3) 石井印刷へ、埼臨技だより第472号印刷代62,208円を支払った。

7 精度管理委員会

1) 埼玉県医師会精度管理調査目標値・解答一覧を10月だよりとともに送付予定。

8 一都八県会長会議

1) 特になし。

9 日臨技関甲信支部

1) 特になし。

10 日臨技

1) 平成30年9月21日(金)、22日(土)に日臨技支部長会議、理事会が開催された。

議事録は日臨技HP会員専用サイト：理事会・総会議事録欄を参照。

- 2) 各種委員会報告については執行理事会承認後に理事会議題となり議事録に掲載される。
- 11 第46回埼玉県医学検査学会
- 1) 9月21日(金)、第11回実行委員会が開催された。

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(平成30年度分)
平成30年10月1日現在
会員数 3,039名[平成29年度会員数2,897名]
(新入会員 252名)
賛助会員 80社[平成29年度 86社]
承認された。

- 2) 埼臨技事務所年末年始休暇について
平成30年12月29日から平成31年1月6日までとする。
承認された。

2 総務部

- 1) 第47回埼玉県医学検査学会実行委員について。
承認された。
- 2) 第47回埼玉県医学検査学会より、学会長公印と事務所倉庫の鍵の借用について
承認された。

3 事業部

- 1) 糖尿病無料相談会の実務委員について
承認された。

- 2) 平成31年賀詞交歓会および各賞受賞記念祝賀会招待者について
承認された。
- 3) 第18回わらび健康まつり実務委員について
承認された。
- 4) 平成30年度深谷市福祉健康まつり実務委員について
承認された。
- 5) 検査室管理運営委員の追加について
承認された。

4 学術部

- 1) 特になし。

5 精度保証部

- 1) 特になし。

6 会計部

- 1) 特になし。

7 精度管理委員会

- 1) 特になし。

8 第46回埼玉県医学検査学会

- 1) 特になし。

Ⅳ. 議題

- 1) 特になし。

Ⅴ. その他

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。



お知らせ

平成31年賀詞交歓会及び 各賞受賞記念祝賀会開催のご案内

日 時：平成31年1月11日(金) 午後6時30分～午後9時

会 場：ラフレさいたま 4階「櫻の間」

会 費：8,000円

問い合わせ先・申し込み先：公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会

TEL：048-824-4077 FAX：048-824-4095

E-mail：sairingi@sairingi.com

申し込み締め切り日：12月14日(金)

あ と が き

11月は霜月とも呼び、その名のとおり寒さも感じる季節となりました。各地で紅葉が見ごろを迎えていますが、皆様は紅葉狩りにお出かけになられましたでしょうか。

さて、11月14日は「世界糖尿病デー」です。この日は各国で様々なイベントが開催され、日本各地でも著明な建造物をブルーにライトアップして、街頭での啓発活動を実施しています。また、11月14日は、インスリンを発見したカナダのバンティング博士の誕生日であり、この日を糖尿病デーとして顕彰しています。皆様もこのイベントに参加して、ご自分やご家族とともに、糖尿病の予防について考えてみてはいかがでしょうか。

(奈良 記)

